

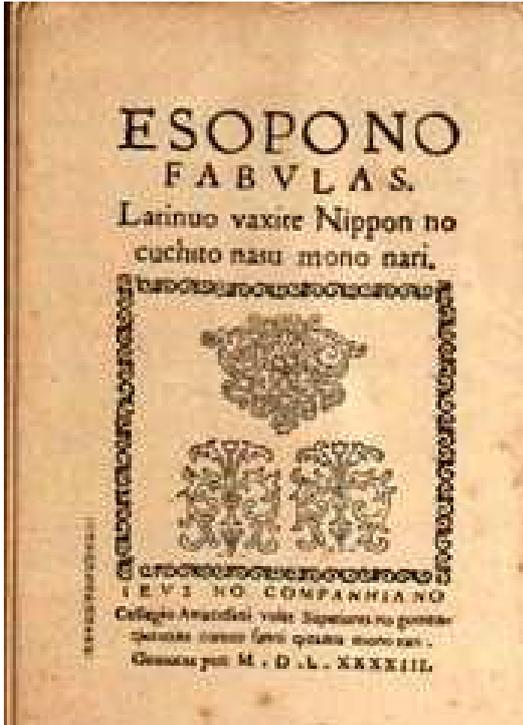
# 天草本【伊曾保物語】

(天草コレジヨ館蔵)

※ 天草本と呼ばれる【平家物語】・【伊曾保物語】など47種(うち12種現存)は、1591年~1597年頃、日本最初の活版印刷本として天草のコレジヨ(大神学校)において、ゲーテンベルク印刷機によって印刷された。

原本は、現在イギリスのブリティッシュミュージアム(大英博物館)別館のライブラリーに所蔵されている。

ポルトガル式ローマ字で印刷されている。



(翻字)

## イソップが生涯の物語略

これをマシモ・プラヌーデという人、グレゴのことはよりラチンに翻訳せられしものなり

エウローバのうちヒリジャと言う国のトロヤという城裡の近辺にアモニヤという郷がおじゃる。その郷に名をばイソポというて、異形不思議な人体がおじゃったが、その時代エウローバの天下にこの人に勝って醜い者もおりなかつたと聞こえた。まず頭は尖り、眼はつぼう、しかも出て瞳の先は平らかに、両の頬は垂れ、首は歪み、丈は低う、横ばりに、背は屈み、腹は腫れ、垂れ出て、ことばは吃りでおじゃった。これらの姿をもって醜いこと天下無双であった如く、知恵の長けた者もこの人に並ぶことはおりなかつた。

ある時主人イソポが上を思わるるようは、「公界の捌き、或いは内緒の取扱いなどは、いかにも似合うまじいと見ゆれば、せめて農人の所作をなりとも宛わず」と思い定め

(翻字)

## イソポのファブラス(物語)

ラテンを和して 日本の口となすものなり

(図)

イエスのコンパニア(耶蘇会)のコレジオ天草においてスペリオスの御免許としてこれを版に刻むものなり。ご出生より(キリスト生誕)1593年

※翻字は京都大学文学部編【伊曾保物語】を引用



DOCVIVNO FITOYE TAIKIK  
TE XOSV.

Sýre fitoua mimonaqi tauamútegotónitua rú-  
miuo catamúqe, xinjítuo qeódeuoba qiquni ta-  
cut suruni yotte, mimigicaqi cotouo atçume, cono  
monogataríuo fanni qizamúoto, taroyeba jumo-  
cuuo aifuruni, cotonazú; sonoyuyeta vyeqiniua  
yeqinaqi yedafa vouoxito iyedomo, sono nacani  
yóqi ní aru vomotte yedafauo muyóto vomouanu-  
ga gotoqu nari. Carugayuyeni Súperiores no vóxe  
vomotte cono monogataríuo Latínyori Nipponno  
cotobani yauarague, iroirono xenzacuno nochí,  
fanni firacatum nari. Core macotoni Nipponno  
cotoba qe cono tameni tayorito naru nomunazú,  
yoqi michiuo fitoni voxíye cararu tayorito no  
rubeqi mono nari.

(翻字)

読誦の人へ対し  
て書す。

惣じて人は実もなき戯れごとには  
耳を傾け、真実の教化を聞くに  
退屈するによって、耳近きことを集め、この  
物語を板に刻むこと、たとえば樹  
木を愛するに異ならず、その故は樹には  
益なき枝葉多しといえども、その中に  
よき実あるを以って枝葉を無用と思わぬ  
が如くなり。故にスペリヨレスの仰せ  
をもって、この物語をラテンより日本の  
ことばに和らげ、色々の穿鑿の後、  
板に開かるるなり。これを真に日本の  
ことば稽古のために頼りとなるのみならず  
よき道を人に教え語る頼りともな  
るべきものなり。

※翻字は京都大学文学部編【伊曾保物語】を引用

Inuga nicuuo fucunda coro .  
いぬがにくを ふくんだこと

Aru inu xiximurauo fucunde cauauo vataruni, so .  
あるいぬ ししむらをかをふくんでかわをわたるにそ

no cauano mannacade fucunda xiximurano cague-  
のかわの まなかでふくんだ ししむらの かげ

ga mizzuno soconi vtçurtauo mireba, vonorega fu  
がみずの そこに うつたを みれば, おのれがふ

cunda yorimo, ychibai vôqinareba, caguetoua xi-  
くんだ よりも いちばい おおきなれば かげとはし

raide, fucundauo futete mizzuno socoye caxirauo ire  
らいで ふくんだを ふてて みずの そこ えかしらを入れ

te mireba, fontaiga naini yotte, funauachi qiyevxe-  
て みれば ほんたい がないに よって すなわち きえうせ

te dochiuomo torifazzuite xittçuiuo xita .  
て どちらをも とりはずいて しっつ いをした。

犬が肉をふくんだこと

ある犬ししむらをかをふくんで川を渡るに そ  
の 川のまん中でふくんだししむらのかげ  
が 水の底に写ったを見れば おのれが ふ  
くんだよりも一倍大きければ 影とはし  
らいでふくんだをふてて 水の底へ頭を入れ  
てみれば本体がないによって即ち消え失せ  
てどちらをもとりはずいて しっついをした。 (天草読本 より)